

校庭の樹木で子育てする鳥たち

風間美穂

春から夏にかけて、出前授業などで岸和田市内の学校へ行くと、校内でいろいろな鳥が巣をつくって子育てをしているのを見かけます。これは、山間部や丘陵地部だけでなく、まちなかにある学校でも同じです。鳥にとって学校は、子育てができる環境を提供してくれる大切な場所なのです。

学校内で繁殖する鳥の巣には、建物のなかにあるものと、校庭の樹木につくられているものがあります。建物の中につくるものについては、第 43 号(平成 23 年 3 月 15 日発行)で紹介したので、今回は校庭の樹木につくっているものについて書きたいと思います。

fromM のバックナンバーは、きしわだ自然資料館ホームページで見られます。

自然資料館トップページ→無料出版物→fromM：郷土文化室。

樹木につくる鳥の巣は見つけにくいのですが、その中で比較的探しやすいのがハトのなかま「キジバト」の巣です(写真 1)。本種は「山鳩」ともよばれ、以前は山間部にすんでいましたが、現在はまちなかでもふつうに見られます。巣は、他の鳥にくらべ、粗雑で枯れ枝を組み合わせただけの形状をしており、下から卵が透けて見えることもあるくらいです。多くの鳥では、子育て時期が春から夏に限られていますが、キジバトは年中くりかえし子育てをするので、秋や冬にも巣の中に卵やヒナがいることがあります。校庭では、クスノキやソメイヨシノに巣をつくることが多いようです。最近は校舎などの建物の中に巣をつくるものもいます。



写真 1. キジバト(左)とキジバトの巣(右)

木の枝を組んで巣づくりをする鳥は、キジバト以外に、ハシブトガラスとハシボソガラスがいます(写真2)。いずれもカラスのなかまで、くちばしの太いハシブトガラスが「カーカー」、くちばしの細いハシボソガラスが「ガーガー」と鳴きます。校内に巣をつくる鳥の中ではもっとも大きく、翼をひろげると1mほどにもなります。巣も直径60cm近くあり、学校では、メタセコイアやイチヨウなどの背の高い木につくられることが多いようです。まちなかにある巣では、木の枝のほかに、針金ハンガーなども巣材として利用されています。



写真2. カラスの巣

これ以外の鳥では、木の枝のほか、枯れ草やツル植物、ビニールひもなどを利用して巣をつくるものもいます。

校庭で見られる巣を、おおざっぱに分けると、直径10cmより大きいものならモズ、ヒヨドリ、カワラヒワのいずれか、それより小さいものなら、メジロの可能性が高いです(表1)。ただし、モズとヒヨドリについては、巣の中に卵の殻などの手がかりがなければ、種を特定するのは非常に困難です。ちょうど今ごろの時期に、巣材となる枯れ草やエサをくわえて移動している鳥を見かけたら、どこへ運ぶのかチェックすると、巣の持ち主や場所が判別できるかもしれません。

種名	巣の材料・形状	産卵数	抱卵日数	育雛日数
キジバト	枯れ枝・時々針金	1~2	15~16日	15~17日
コゲラ	枯れた木に穴をあけて中に入る	5~7	12~13日	約20日
モズ	枯れ草やつる植物・ビニールひもなどの人工物	4~6	約15日	14日前後
ハシボソガラス	枯れ枝を組む・針金ハンガーなど	3~6	約20日	30~35日
ハシブトガラス	枯れ枝を組む・針金ハンガーなども使う	4~5	約20日	34~36日
シジュウカラ	コゲラの古巣・木にかけた巣箱に枯れ草などを詰める	7~10	13~14日	18~20日
ヒヨドリ	ツタ・枯れ草など・ビニールひもなどの人工物も使う	3~5	13~14日	10~11日
メジロ	枯れ草・コケ・クモの糸・ビニールひもなどの人工物	3~5	11日	11~12日

表1. 岸和田市内の学校の樹木に巣をつくるおもな鳥

また、ときどきではありますが、丘陵地や山間部の学校では、枯れた木に穴をあけてつくられた、キツツキのなかまでであるコゲラの巣が見つかることもあり、このほかにも学校の場所によっては、藪でウグイスが、樹上ではホオジロが、樹木にかけた巣箱にはシジュウカラなどが巣をつくっているかもしれません。

樹木につくられた鳥の巣は、葉が茂っている時期はなかなか見つけにくいものです。また、子育て中に何度ものぞき込んだりすると、子育てを放棄してしまうことがあるので、繁殖期の観察には注意が必要です。ただし、極端に神経質になる必要はありません。もともと人の近くで繁殖する鳥なので、通常の人通り程度では逃げ出したりすることはないでしょう。

秋から冬にかけて樹木の葉が落ちると、そこにつくられた巣はとても探しやすいです。また、台風など強い風が吹いた翌日には、巣が地上に落ちていることもあります。どのような巣が校庭で見られるのか冬の間に調べ、校庭の鳥の巣マップをつくってみてはいかがでしょうか。樹木につくられた巣は、落ちてしまうと再利用されることはありません。なので、もし中に何も入っていない巣が落ちていたら、学校の教材としてぜひご利用ください。学校で不要な場合は、ぜひ自然資料館へ持ってきてください。2階常設展示室にある「発見ボックス」で、発見者のお名前を記したうえで、貴重な資料として展示させていただくことがあります。

(かざまみほ: 自然資料館学芸員)

今年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公新島八重は、同志社の創立者新島襄の妻として知られています。これまでは必ずしも歴史上の有名人というわけではなかったと思いますが、大河ドラマによってかなりその知名度は上がったことでしょう。さて、新島襄・八重夫妻が何度か岸和田を訪れていたことを皆さんはご存知でしょうか。

明治11(1878)年7月、新島襄が岸和田にやって来ました。それは最後の岸和田藩主岡部長職(ながもと)からの依頼をうけて、岸和田にキリスト教(プロテスタント)を布教するためでした。岡部長職は明治8年から16年まで欧米に留学し、11年に米国でキリスト教の信者になりました。長職は米国から英文の手紙を新島に送り、キリスト教を岸和田の人々に伝えてほしいと頼んだのです。まだキリスト教が解禁されて間もなく、キリスト教に対する偏見も根強く残っていたと思われませんが、元殿様の依頼で来た新島の講義を聴きに多くの元藩士らが集りました。特に元上級藩士であった山岡尹方(ただかた)は、長職から名指しで新島のお世話を任されたこともあり、熱心に新島の講義を聴き、やがてキリスト教信者となりました(写真3)。新島の講義は浜町の時習社 山岡たち士族らが組織した結社 で7日間毎日2時間ずつ行われ、聴衆は最初20名ほどでしたが、後に100名ほどにまで増えました。新島の最初の来岸は約1週間でした。この時集まった人々の中には女性も何人かいました。しかし「男女席を同じくせず」の習慣から彼女たちは襖の陰に隠れていたようで、新島は女性への伝道のために女性の宣教師を送ることにしました。その一人が彼の妻八重だったのです。

八重は明治11年12月に来て、女性たちにキリスト教について話しました。翌年3月にも再来して女性の集会を開きました。その次に彼女が来たのはずっと後、大正6(1917)年1月のことでした。この時は岸和田教会で開かれた新島襄没後27年目の追悼集会への出席と、泉南高等女学校(今の和泉高校、当時は今の福祉総合センターの所にありました)での講演のためでした。講演の内容は白虎隊のことだったそうです。八重は会津若松藩の砲術師範山本権八の娘として生まれ、白虎隊の悲劇などで知られる明治元年の会津戦争を若い時に経験しました。白虎隊は16~17歳の男子が入隊できたのですが、彼女が砲術を教えた15歳の少年が年齢を偽って入隊し、飯盛山で自決したため、八重は後年までそれを悔いていたといえます。恐らく講演の中でそのことにも触れたと思われるのですが、詳しい講演内容は伝わっていません。

新島襄は最初の岸和田伝道を終えた直後に岡部長職に宛てた手紙の中で、女性が奴隷のような状態におかれている状況を改めない限り、決して日本の社会はよくなるまい、と述べました。女性がキリスト教化され、教育を受けて高められてゆけば、男子以上に社会をよくする働きができる、とも述べています。今

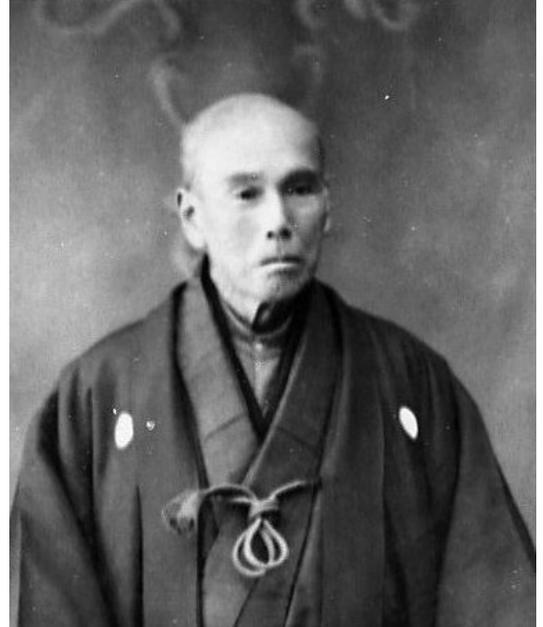


写真3. 山岡尹方肖像



写真4. 岸和田教会

でこそ男女平等が当たり前の世の中となりましたが、まだ封建的な考え方が強く残る明治初期、きわめて開明的な新島の女性観がここ岸和田での伝道をきっかけに表明されたのでした。

新島襄にとって岸和田は重要な伝道拠点となりました。岸和田は泉州地域ではキリスト教(プロテスタント)が最も早く広まった地域だったのです。新島の活動に協力し、自らもプロテスタント信者となり、同志社の学生ともなった山岡尹方が中心となり、明治 18 (1885)年本町に岸和田教会が設立されました。泉州で最も古いプロテスタント教会です。教会はその後何度か移転し、大正 9 (1920)年に岸城町内に移り現在に至っています(写真 4)。

(やまなかごろう：郷土史担当)

Information

■岸和田城の展示案内■

企画展「岸和田の近世絵図と古文書」

市内各地の江戸時代の様子を絵図と古文書から探ります。

期 間：2013 年 5 月 15 日(水)～9 月 1 日(日)

時 間：午前 10 時～午後 5 時(入場は 4 時まで)

入場料：大人 300 円 中学生以下無料

休場日：毎週月曜日(7 月 15 日は開場します)

主な展示資料：

- ・本町の図(江戸前期)
- ・岸和田浦図(江戸中期)
- ・内畑村絵図(寛政 10<1798>年)
- ・久米田池郷申合書(寛政元<1789>年)

ほか約 30 点

問合先：郷土文化室(423-9689)

■きしわだ自然資料館展示案内■

写真展「神於山の自然」

「神於山保全くらぶ」による、岸和田を代表する里山「神於山(こうのやま)」でみられる動植物の写真展です。

期 間：2013 年 6 月 1 日(土)～2013 年 7 月 7 日(日)

時 間：10 時～17 時(入場は 16 時まで)

場 所：自然資料館 1 階ホール

入場料：無料(常設展は、大人 200 円 中学生以下無料)

休館日：毎週月曜

お願い [fromM]は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。

担当の方は忙しいところ申し訳ありませんが、よろしく願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館

TEL: (072) 423- 8100 FAX : (072) 423- 8101

Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)